

あなたの所得税と

住民税が変わります

ほとんどの人が1月分から所得税が減り、6月分から住民税が増えます

なぜ変わるの？

皆さんにより身近なサービスを効率よく行えるよう、国から地方へ税源移譲が行われるからです。

「地方でできることは地方に」という方針のもと進められている三位一体改革。その柱といえるのが「税源移譲」です。

町や県などの地方自治体は、国が所得税（国税）として集めた財源の中から国庫補助金を受けており、その行財政システムは必ずしも自主性が高いとはいえません。

このため、町などが自主的に財源の確保を行い、住民にとって必要な行政サービスを自らの責任でより効率的に行えるよう、国から地方へ約3兆円の税源移譲をすることになりました。

どう変わるの？

住民税の「所得割」の税率が10%に統一されます。

個人住民税は、その人の所得に応じて負担する「所得割」と皆さんが一定額を均等に負担する「均等割」で構成されています。

この所得割の税率が、課税所得に応じて現在の3段階（5%、10%、13%）から一律10%に変わります。

※課税所得 個人の給与や事業収入などは税法上「収入」と呼ばれるものです。「課税所得」は収入から給与所得控除や基礎控除、社会保険料など諸控除を差し引いた残りの金額のことです。この課税所得に税率をかけた金額が「税額」となります。

税負担はどうなるの？

所得税の税率も改正され、納税者の負担が大きく変わらないうよう配慮されます。

住民税所得割の比例税率化に伴い、下表のとおり国に納める所得税の税率は、現在の4段階から6段階に細分化されます。

このため、ほとんどの人は所得税が減り、その分住民税が増えることとなります。

●住民税：最低税率が5%から10%に引き上げられ、最高税率が13%から10%に引き下げられます。

●所得税：最低税率が10%から5%に引き下げられ、最高税率が37%から40%に引き上げられます。

【適用時期】給与・年金受給者は平成19年1月分から

その他の変更点は？

◆定率減税を廃止

景気対策のために暫定的な税負担の軽減措置として導入されていた

●人的控除額の差：住民税と所得税では、基礎控除や扶養控除などの人的控除額に差があります。

このため、個々の納税者の人的控除の適用状況に応じて住民税を減額することにより、納税者の税負担が大きく変わらないようにしています。



定率減税が廃止されます。このことにより税の負担は増えます。

【廃止時期】所得税は平成19年1

月分、住民税は6月分から

◆住宅ローン減税

平成11年から18年までの入居者に限り、今回の税源移譲によって19年以降の所得税で住宅ローン減税額が控除しきれなかった場合、その残額は20年度以降の住民税で減額されることとなります。

ただし、この適用を受けるためには町への申請が必要です。

詳しくは、住民課税務徴収係
（☎役場内線132・134）
へお問い合わせください。

中学生6人が入賞 税についての作文

全国納税貯蓄組合連合会が募集した中学生の「税についての作文」で、町から初めての東北地区納税貯蓄組合連合会長賞をはじめ、次の6人が入賞しました。

作文の募集は租税教育の一環として毎年行われているもので、今年は県内から2,461編、全国では463,237編の応募がありました。

入賞者〈敬称略〉

◆東北地区納税貯蓄組合連合会長賞

中村 大地（江刈中3年）

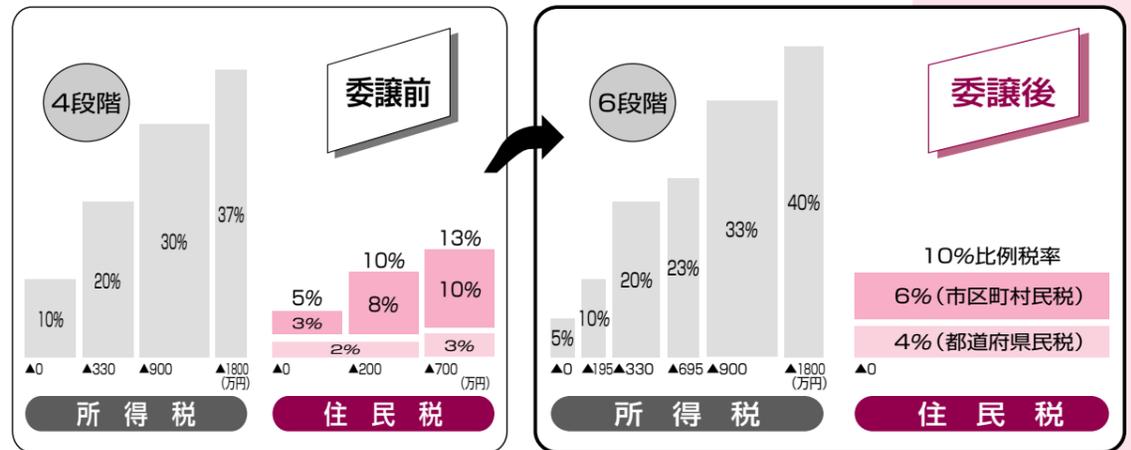
◆岩手県納税貯蓄組合連合会長賞

川戸 裕佳（江刈中3年） 中崎 広隆（江刈中3年）

上家 葉月（小屋瀬中1年）

◆盛岡地区納税貯蓄組合連合会長賞

林 敬之（小屋瀬中3年） 橋 優雅（江刈中2年）



税金と酪農

中村 大地

僕の家は酪農をしています。酪農は辛い仕事です。朝も早く起きなければならないし、夜もトラブルがあれば寝られません。そんな辛い事の1つに3月の確定申告と納税があります。

確定申告では、農機具、トラック、そして搾乳牛全部の減価償却を計算し、収入と支出を報告します。報告した後に納税をしますが、父はやりくりが大変なようです。牛舎の固定資産税やトラックの自動車税など納める税金がたくさんあり、どの酪農家も苦労しているようです。

しかし、税金に助けられることもたくさんあります。たとえば、牛舎や堆肥舎を建てる時に、補助金を出してくれます。補助金をもらえば、牛舎や堆肥舎を建てた時の返済するお金が減り、返済がとても楽になります。

また、乳牛改良のために牛や受精卵を導入することができます。その時にも補助金が出ることがあります。牛も受精卵もとても高価なものですが、補助金のおかげで導入することができ、今ではその孫やひ孫が生まれ、助けています。さらに、牛乳が売れない時のために安定基金というものがあります。これは、野菜や米にもある制度ですが、牛乳の値段が下がっても最低の値段が設定されるので、それ以上は値段が下がらないという制度です。

このように、税金と酪農は切っても切れない関係にあります。ヨーロッパでは酪農に関する補助金を一切出さないという国があるようですが、日本ではまだまだ補助金に頼らないと酪農をやっていけない酪農家がたくさんいます。

酪農は辛い仕事だと最初に書きました。補助金がなければ離農する農家も増えると思います。酪農のみならず、米や野菜等を作っている農家も同じようなことが言えるのではないのでしょうか。また、酪農の補助金に限らず、税金は他にもたくさん使われていることが分かりました。身近なところでは、教科書、学校の建設や補修、それに通学路や道路の管理にも使われています。このように僕たちは税金がさまざまなものに型を変えて暮らしやすくなっていることに気づくことができました。

僕はまだ税金を納めませんが、将来、家の酪農を継ごうと思っています。そこで、長く酪農を続けるためには、補助金に頼らない農業を早く実現したいとも思っています。しかし、

税から得られる補助金に助けられていることも忘れずに、経営者になったら、しっかりと納める1人になりたいと思います。

